

## 会 々

○夏が来れば、暑い暑いとばかりい、冬になれば、寒い寒いとばかりい、なぜ、こう不平ばかりいうのでしょうか。一年三百六十五日、四季の変化があるのが、日本を美しくする所以だと、一方では言っておきながら、そのうえ雪月花と春秋の歌は忘れなくせに、夏だけには水とか風とか、夏なればこそ涼しかりけれといった反語的の歌ばかりで、その吹く風、水の流れだけをせめても風流として、夏の暑さそのものには、何んの礼讃も与えないのは、夏季に対して少し気の毒じやありませんまいか。

○なるほど、日やけをいとわせられるミスシヤン先生には、木かげの少ない七月の園庭が、また、薄物の襟のくづれを気になさる夏やせ先生には、午さがりの遊戯室が、決しておらくでないことはお察しできますけれども、そこで元氣にかけ廻っている汗だらけのマツクロ幼児には暑さはそんなに苦にならないのです。それどころか、灼けている砂場の砂も、煮えている水遊び場の

日向水も、印度の幼稚園を思わせる潑刺たる半はだかの楽しい世界なのです。町の幼稚園では、どこからかまぎれこんで来た一匹のヤンマを、総員総出で大歓迎をします。村の保育所では、後庭の椎の木にしがみついている一匹の蟬に、高嶺の賓客としての歓呼の声を送ります。先生に、きれいでしようといわれて、ポールの貧弱な紅梅の絵に鑑賞を強要せられる春や、黄色い色紙をまるく切つて、先生がさつき背のびをして壁にピンでとめて下さつたお月さまの前で、今夜出るお月さまは明るいお月さまと歌わされる秋よりも、どんなにか生き生きしている保育でしょう。ねむそうな声でおひるねなさいよと言われても、なか／＼承知しないほど、夏の幼児は活気に溢れています。その実状が、春の花、秋の月、冬の雪とならべて、一つ先生方の実感句にならないものでしょうか。

○そういう幼児達の前で、せめて暑さに屈托した顔を見せませんまい。けさからうんざりしているような薬振を出しますまい。その代り幼児たちが皆帰つて行つた後では、

更衣室で汗をおぬぐいになるのも結構です。オードロンをお使いになるのも結構です。保育の汗の香をそのまま、で電車の中にお乗り込まれるのも先生を誇る所以でもありますまいから。

○夏季講習会の時が来ました。本協会においても、例年の如く保育講習会を開催します。(本誌本号広告通り) 諸君の多数参加せられることをお待ちします。

### 幼児の教育

第三巻 第八号

定価 金五拾円

昭和二十七年八月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉 橋 惣 三  
発行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田神保町二ノ四

発売所 株式会社 フレーベル館

振替東京一九六四〇番

○本誌御購請について注文申込その他はすべて発費所フレイベル館に願います。